3.11から３年の節目を迎えて

写真は平成 24年10 月に生まれた髙橋悠結（はるむ）くん。（1 歳５か月）。母親の礼子さん（比曽）と遊ぶ「子育てサロン」でのひとこまです。村で震災後に生まれた赤ちゃんは 137人（平成 26 年1 月末現在）。震災後の混乱の中で生まれた新しい命が、健やかにそして確かに育っていることは私たち村民の『希望』です。

全村避難となり、想像もつかない日々を経験することになった飯舘村民。先の見通しが立たない中で懸命に暮らしをつむぎ、家族を守り、仲間と励まし合う姿に、内外から多くの支援が届けられた３年間でもありました。

平成 26 年３月 11日 。東日本大震災が起きた「3.１１」から３年の節目を迎えます。

あの頃を振り返る気持ちの余裕が持てないまま、震災後の3年間を過ごしてきた人も多いのではないでしょうか。

平成23年3月11日午後2時46分、マグニチュード9・0の激しい地震と津波が東日本を襲いました。飯舘村も震度6弱を記録。家屋の屋根や外壁の破損など、建物被害が相次ぎました。

また、本震・余震による落石などで、道路や農地にも被害がありました。路肩陥没や土砂崩れなどの被害を受けた村道・農林道は約70か所。停電もあり、固定電話・携帯電話とも不通。水道管も破裂し、全村で断水しました。

さらに、東京電力福島第一原子力発電所の事故発生が発表されると、12日の夜からは、原発から少しでも遠くへ避難しようとする車で、県道12号線（原町川俣線）が大渋滞となりました。村は、「いちばん館」「までいな家」などに避難所を開設。村職員の他、消防団や女性消防隊、婦人会、村社会福祉協議会などが協力して対応にあたりました。

そして15日、原発の3号機が水素爆発を起こします。その日村に降っていた雨は、夜には雪に変わりました。前日「いちばん館」前に設置されていた放射線測定器の測定値が、この時から急上昇を始めました。

あの時から3年。慣れ親しんだ暮らしを奪われた村民の苦しみは今も続いています。3年の節目となる「3・11」を越えて、次の1年が復興に向かう確かな礎となるよう、手をたずさえて進んでいきましょう。

避難所を開設した「いちばん館」

婦人会などによる炊き出し

村道小滝大倉線をふさぐ落石

燃料を求めガソリンスタンドに並ぶ車列

被災証明を発行する役場窓口

川俣中学校を間借りし再開した小学校

住民説明会で謝罪する東京電力副社長

平成23年3月から4月
【飯舘村震災グラフ】
「飯舘村2年間のあゆみ」「広報いいたて」から抜粋